

多摩六都科学館西東京ウィークでのパネル展示事業

事業概要

日時：令和2年1月21日から26日まで
場所：多摩六都科学館 2階特設コーナー

事業目的

多摩六都科学館の西東京ウィークにおいて、プラスチックごみ問題に関するパネル展示を行い、プラスチックごみを捨てるとどうなるのか、マイクロプラスチック問題など考えるきっかけとする。また、西東京市第2次環境基本計画後期計画における重点プロジェクト②河川清掃でコベネフィットにおいて実施した清掃活動の紹介や普及パネル、③「マイバッグでお買い物」に関する普及啓発のため、市民団体にデータ提供をもらい、レジ袋辞退率調査や、アンケートの結果のパネルも作成した。

事業内容

プラスチックごみ問題に関するパネル展示を行った。なお、令和元年5月26日に実施した環境フェスティバルにおいて作成したSDGsパネルも併せて展示した。

パネル展示の様子



知っていますか？ プラスチックごみ問題

レジ袋やペットボトルなど、いろいろなものにプラスチックは利用されています。便利な反面、大量のプラスチックごみどして海に流れこみ、魚たちが餌と間違えて食べてしまうことも多い。環境問題を引起こしています。プラスチックごみ問題について学んでみませんか。

制作：西京京市子ども環境創造推進会議

意外と知らない プラスチックの使いみち

海の漂いによるプラスチックごみ問題はどのような形で発生しているのでしょうか。プラスチックはとっても便利な特性があります。食器や容器だけでなく、自由に形を変えることができる。他に強い性質を持つこともあって、さらに重宝を逃さない素材があるため、知らず知らずうちに私たちの生活や環境に活用されています。プラスチックがどんなところで使われているか、確認してみましょう。

包装	59.9%
消費財・家庭用品・家具、スポーツ、健康、安全関連用品	22.4%
建築・建設	19.7%
自動車	8.9%
電子機器	5.8%
農業	3.3%

出典：国際連合広報センター調べ

捨てるなら もらわない

プラスチックの再利用や一時的な貯留・保管、さらには別の用途でも使うこともできる。例えばスーパーマーケットに行くときに、レジ袋をもらって帰るか？レジ袋の再利用は、魚たちが餌と間違えて食べてしまう。使ったレジ袋は、そのままに捨てるのは、環境問題を引き起こす原因です。レジ袋をもらわず、エコバックを使うこともできる。レジ袋をもらわずに帰るか？レジ袋の再利用は、魚たちが餌と間違えて食べてしまう。使ったレジ袋は、そのままに捨てるのは、環境問題を引き起こす原因です。レジ袋をもらわずに帰るか？

「プラスチックごみ」あなたはどうしますか？

プラスチックごみが自然環境中に49億トン蓄積！プラスチックの大量生産が始まった1950年代以降世界の生産量は8億トン、ごみになったのは3億トン。そのうち廃棄物が5億トン、リサイクルは3億トン、4億トンが蓄積と推定。（カリフォルニア大学による）

世界の海に5兆個のマイクロプラスチックが！捨てられたプラスチックが毎年500万トン〜1300万トンが海に流れ込み、小さなマイクロプラスチックになり、魚鳥類がこれを摂取して、現在では世界中の鳥鳥類から検出されています。この海の汚染が世界的な問題となり、2018年のG20で海洋汚染防止の意向声明を行っています。

調査170人（6ヵ所アンケート）

アンケート「プラスチックなど付さぬ方がいいですか？」	7人
プラスチックを使ったらの後悔がないようにする	7人
ペットボトルに入らなくなったの後悔がないようにする	30人
レジ袋を買わない	118人
お金を使わずに家で済ませたいので自分で持ち帰るべき	12人

西京京市民の環境意識が高く、7人が「プラスチックを使ったの後悔がない」としていますが、それでも10%強の人が「生活は変えようがない、汚染は仕方ない」とあきらめていることも見られます。

レジ袋 西京京市消費者団体連絡会では、10年以上東京都内のレジ袋の削減率を調べている。削減率は約9割。10%程度まで減っている。削減率は約51.8%ですが、西京京市は70%の人が削減しています。

年次	削減率	削減量	削減率
2008年度	41.0%	1,036,600個	527人
2010年度	48.0%	1,289,500個	654人
2012年度	52.0%	1,372,100個	722人
2014年度	58.0%	1,855,100個	986人
2016年度	62.0%	2,222,100個	1,189人
2017年度	62.0%	2,310,100個	1,254人
2018年度	62.0%	2,020,100個	1,051人

日本も無く今後はレジ袋の有料化が検討も予定。今後レジ袋の使用削減が期待されます。

レジ袋削減率について西京京市消費者団体連絡会から調査
調査：西京京市消費者団体連絡会 池田 千穂氏
プラスチックの使用を減らすことは大変難しいことです。一人ひとりの意識から始めて、企業と消費者が一緒になって取り組む必要があります。

年間 800万 トンの プラスチックが 海に流れ込み 生き物 漁業 観光に損害を与えています

ペットボトルやレジ袋、食器など、プラスチック製品は手軽で便利な反面、安価で生産できることから、私たちの暮らしのあらゆる場面で利用されています。

今、世界で最も深刻な海洋プラスチック問題は、大規模な海洋プラスチックごみの流れ込みです。大規模に流れ込むプラスチックごみは、生き物や漁業や観光に大きな被害を与えています。大規模なプラスチックごみの流れ込みは、生き物や漁業や観光に大きな被害を与えています。大規模なプラスチックごみの流れ込みは、生き物や漁業や観光に大きな被害を与えています。

2018年の世界経済フォーラム年次総会（ダボス会議）で、この世界の状況が明らかになりました。2050年には、海に漂うプラスチックの量は増加を続けると予想されています。

プラスチックが 毎年、海洋生態系に 与える経済的損失 80億 ドル

プラスチックが海に流れ込み、魚や鳥、生き物などに被害を与えています。また、観光客も減少しています。経済的損失も大きくなっています。プラスチックは、環境汚染の原因の一つです。レジ袋、ペットボトル、プラスチックごみは、海洋生態系に大きな被害を与えています。また、観光客も減少しています。経済的損失も大きくなっています。

海洋生態系への影響は約80億ドルの経済的損失があると推定されています。また、観光客も減少しています。経済的損失も大きくなっています。

出典：UNEP（国際連合環境計画）による調査です。

魚がプラスチックを食べ 私たちがその魚を 食べる

海に流れ込んだプラスチックは、日光や熱、波などで壊れてマイクロプラスチックになり、魚がそれを食べてしまいます。魚がプラスチックを食べると、魚はプラスチックを排泄しますが、プラスチックは魚の体の中に残ります。また、魚の体の中にプラスチックが入ると、魚はプラスチックを食べると、魚はプラスチックを排泄しますが、プラスチックは魚の体の中に残ります。また、魚の体の中にプラスチックが入ると、魚はプラスチックを食べると、魚はプラスチックを排泄しますが、プラスチックは魚の体の中に残ります。

魚がプラスチックを食べると、魚はプラスチックを排泄しますが、プラスチックは魚の体の中に残ります。また、魚の体の中にプラスチックが入ると、魚はプラスチックを食べると、魚はプラスチックを排泄しますが、プラスチックは魚の体の中に残ります。

プラスチックの利用を減らそう どうしても使うなら リサイクルしよう



環境汚染と資源枯渇の脅威から、「3R:削減 (reduce)、再利用 (reuse)、リサイクル (recycle) が推奨されています。どうしてもプラスチック製品を使う場合は、リサイクルできるかどうかしっかりと考えましょう。また、オフセットのときも、製品 (reuse) もプラスチックが削減していても不要なもの、余計なものは「いりません」と断ってきましょう。マイバッグを利用すればレジ袋は必要ありません。それが手元に必要かどうか、他の製品で代替できないか、プラスチックの削減を妨げないように工夫しましょう。

世界にレジ袋の使用を禁止している国も20か国以上あります。フランスでは持ち帰りプラスチック容器をゼロにする目標を掲げています。また、レジ袋禁止、レジ袋禁止のみではなく、旅行客がレジ袋を国内に持ち込むことも禁止され、厳しく管理されています。

世界中で盛んに行われているプラスチックごみ対策が実施されています。海の生き物のため、そしてかけがえのない地球のため、私たちができることに取り組んでいきましょう。

西東京市内を流れる石神井川にもプラスチックごみが多くあります！

- 令和元年10月1日 (祝日の日) に、石神井川で定期的に清掃活動をしている市民団体 (MeC西東京: 末光正志氏) の協力の下、西東京市環境推進課職員、環境課職員らと協力し、本島島にて、市内を流れる石神井川 (南沢川の支流) にて、清掃活動を行いました。
- 市民団体の参加者約30名が参加し、清掃活動を行いました。清掃活動の様子を撮影しました。
- 清掃活動の様子を撮影しました。
- 参加した皆様です。お花の香りがあふれる中、清掃活動を行いました。
- 清掃活動の様子を撮影しました。
- 清掃活動の様子を撮影しました。
- 清掃活動の様子を撮影しました。

プラスチックごみが海にも流れ込んでいます

- 捨てられたプラスチックごみは毎年多くの量が海に流れ込んでいます。プラスチックごみ処理期間が経つにつれ、排水口ボロに溜まり、最終処理を待たずに海に流れ込んでいきます。そして「マイクロプラスチック」と言う細かいプラスチックごみも、海洋生物などに食べられることがあります。私たちが捨てたプラスチックごみが、海洋生物を苦しめることにも繋がります。
- 毎年800万トンものプラスチックが海に流れ込んでいます。
- 海まで50%が使い捨てプラスチックです。
- プラスチックごみの95%は廃棄されます。
- リサイクルできる容器を再利用しよう！
- マイカップを使おう！
- レジ袋や個別包装は断ろう！

石神井川の清掃活動に参加してみませんか？

- MeC西東京では、毎月第1土曜日に石神井川で清掃活動を行っています。どなたでも参加することができます。この活動は、2020年までに削減すべき目標として国が定めたSDGs (持続可能な開発目標) の6・12・14・15・17のゴールに貢献します。
- 身近なところからSDGsに貢献し、環境を守るためにも、是非一緒に清掃活動に参加してみませんか？
- ご興味のある方は是非下記連絡先までお気軽にお問い合わせください！
- 過去の河川清掃活動の様子です。西東京市内を流れる石神井川は、清流の多い川でもあります。皆さんも是非参加してみませんか？
- 連絡先: MeC西東京 末光正志氏